

労働環境の改善実現へ！ ハイタクフォーラム総決起集会

2015年3月5日(木)10時から、日比谷公会堂にてハイタクフォーラムが開催されました。

全自交労連・交通労連ハイタク部会・私鉄総連ハイタク協議会が集結し、『タクシー労働現場の労働条件改善を目指すために決起集会で決意を固め、共に闘い抜こう！』と全国から700名が参加をしました。東洋交通からは執行部7名、B出番から44名の方々に参加して頂きました。

主催者代表の全自交労連、伊藤委員長の挨拶では、「期待をかけていた改正タクシー適正化新法施行から1年1ヶ月が経過し、公定幅運賃の導入、消費税導入に伴う運賃改定で個人タクシーとの二重運賃が回避、更に下限割れ運賃についても大幅に縮小させることができましたが、依然として下限割れ運賃事業者は営業を続け、遠距離割引廃止の動きも広がったものの、結局は元の黙阿弥になってしまいました。

さらに京都では深夜割増の廃止、大阪のタクシー特区提案が適正化に暗い影を落としています。

指定地域の先送り、更に指定地域の指定基準が通達されましたが、台数ベースで半数を優に上回る地域が指定されず、この基準は極めて意図的に作られたものと捉えています。特に人口30万人以上の条件で多くの地域がふるい落とされ、まさに改正法の骨抜きと言わざるを得ません。改正法の趣旨はタクシー乗務員の賃金・労働条件の改善が目的だったはずですが、指定条件に乗務員賃金、労働条件が指標にされなかったことは改正法の趣旨を踏みにじっています。この集会は、こうした情勢を少しでも前に進め、突破するための集会であることを確認していきたい。」と述べました。



来賓として、連合の神津里季生事務局長、交通労協の住野敏彦議長、全国ハイヤー・タクシー連合会タクシー事業適性化・活性化推進特別委員会の坂本克也本部長が出席しました。

民主党タクシー政策議員連盟の前田武志会長、民主党の吉田忠智党首から激励の挨拶がありました。

辻元清美・衆議院議員(民主党タク議連幹事長)からは、タクシーをめぐる国会情勢について報告がありました。

民主党タクシー政策議連から参議院議員の櫻井充氏が規制改革会議とタクシー問題について「国会議員というのは国民の代表であり、その代表者が決めた事に對して有識者が勝手に集まり国会議員が決めた事を覆すのはおかしいことです。以前の規制改革会議に参加していたメンバーはタクシーのメーカーを作っている



会社の人、タクシーのリースをしている会社の人でした。タクシーの台数が増えれば増えるだけ儲かるメンバーがその中に入り、労働者の代表は規制改革会議に参加する事ができない。つまり一部の人が利益を得るために制度を歪めてきた。このような間違った政治を正していただくのが我々野党に問われていることだと思っています。」と述べました。

集会後、三班に分かれ、国会議事堂衆院面会所、参院面会所までデモ行進し、待ち受けた民主・社民両党の衆参議員に請願書を手渡しました。

東洋交通からは11115名分の署名が集まりました。ご協力ありがとうございました。

【全自交東京地連合同宣伝行動】

3月5日8時半から約1時間、ハイタクフォーラム総決起集会会場近くの内幸町交差点において、合同宣伝行動を行いました。

東洋交通労組から5名、ライオン交通労組から3名、日交労から12名、合計20名で通行人や地下鉄利用者へ「タクシーが安心・安全の公共交通機関として運行される為には、適正な運賃の確立と適正な需給調整が必要。そのために改正法に基づく特定地域に指定されること」と訴えたビラ94枚、ポケットティッシュ1300個を配布しました。



【全自交東京地連合同宣伝行動】
2015年2月24日(火)13時から、全自交東京地連で合同宣伝行動を行いました。

東洋交通労組からは菊池執行委員長をはじめ執行部7名、ライオン交通労組から3名、日交労から10名、合計20名が参加をしました。

同日の午後より、千代田区の自動車会館で東京4交通圏合同の準特定地域協議会が開催され、それに伴いJR市ヶ谷駅・地下鉄市ヶ谷駅周辺で、改正タクシー適正化新法について『法律の目的を実現し、安心・快適な輸送の確立を！』と訴えるスローガン入りのベストを着用し、通行人にポケットティッシュ1750個、ビラ147枚を配布しました。